



今日のIt's wonderful! 「人前に出るという経験」令和7年3月3日（月）

この日、生徒集会が行われ、各専門部の活動について発表がありました。今回は、専門委員長ではなく、その他の部員が発表し、緊張しながら一生懸命に発表していました。このような「人前に出る」という経験が、子どもたちを育てていきます。しっかり原稿を覚えてきた生徒に「しっかり発表できてたね!」と伝えたら「土日で練習してきました!」と笑顔で答えてくれました。GOOD JOB!



今日のIt's wonderful! 「3年生を送る会」令和7年2月27日（木）

この日、1・2年生が「3年生を送る会」を開いて、3年生との楽しいひと時を過ごしました。内容は、球技大会と工夫をこらした出し物でした。



最後には、みんなで記念撮影をしました。真ん中には大きな模造紙に、これまでの3年生の歩みと「ありがとう」の文字。感謝で終わることができて、本当にいい3年生でした。

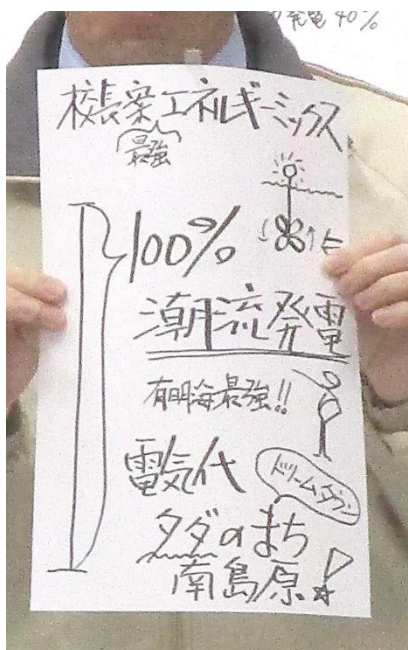


今日のIt's wonderful! 「エネルギーミックス」令和7年2月27日（木）

この日の理科（3年生）は、エネルギーをどうやって生み出すかを考えようという授業でした。



日本は今、火力発電の割合が大きく、再生可能エネルギーが伸び悩んで、原子力発電に頼る比率が高まっています。その「未来」を考える授業でした。



「先生たちもどうぞ!」とのことでしたので、書いた私のカードがこれです。
口之津だったらこれでしょ!・・・これが実現したらいいなあ～!



今日のIt's wonderful! 「実際の避難は・・・」令和7年2月27日(木)

地震や火災は、予定して起こるものではありません。ということで、実施時刻を知らせないで避難訓練を行いました。ふだんは、マニュアルどおりに進む訓練ですが、この日は反省や改善点が多く見つかりました(左は、その話し合いの様子です)。その中で、これが大事だと話し合ったのが「情報を集約すること」と、そのために「大きな声で知らせ合うこと」でした。他にも多くの学びがありましたので、改善に生かしていきたいと思います。



今日のIt's wonderful! 「卒業式へ向けて」令和7年3月7日(金)

来週、卒業式を行います。ということで、この日、会場設営や校舎内への思い出の作品の掲示、そしてすみずみの掃除をしました。(例年、会場設営は、式の2日前に行いますので、土日を含んだ今年はこの日になりました。)



校内には、3年生の思い出の写真が掲示され、懐かしい写真の前には3年生が集まって、笑顔で思い出を語り合っていました（こんな掲示物が、校内のあっちにも、こっちにも・・・）。楽しく思い出を振り返りながらも、「私達って、ほんとうに卒業するんだね・・・」と、自覚が深まっていくのかな。学校に通うのもあと2日となりました。



3年生の教室もこのとおり、（ちょっと寒いけど・・・）卒業式当日モードで今日も、月曜日も過ごします。生徒たちは「動物園みたいですわね。」「廊下から手を出さないでくださいって言われそう。」と笑いながら言っていました。残りの中学校生活、できることは何でもやっています。



このあと、みんなで式の流れや式歌の練習をしました。今年の練習と準備のテーマは「意味を考えて、心を込めて」です。式にはいろいろな所作や配置などがありますが、それぞれに「意味」や「配慮」「敬意の表現」などがあります。それらを踏まえて、心を込めて準備しました。保護者の皆様、御来賓の皆様、3月11日、お待ちしております！



今日のIt's wonderful! 「最後の授業」令和7年3月7日（金）

3年生の中学校生活最期の授業（教科）は英語でした。めあては「長崎の良さを伝えよう」でした。プレゼンのスライドを作り、英語で「長崎のよさ」をスピーチしました。そのあと、先生たちから質問（英語で）を受けて、英語で答えていく、という流れでした。みんな笑顔で受け答えをしていました。

一つ一つが終わっていく……。そんな寂しさもちょっと感じた卒業直前の最後の授業でした。



今日のIt's wonderful!「卒業式、一日前」令和7年3月10日(月)

明日の卒業式へ向けて、最後の練習を行いました。時間にして24時間前に始めました。これから24時間後には本番を迎えます。愛おしみながら時間が過ぎていきました。



生徒を代表して、森(前)会長と飯田副会長が送る言葉や別れの言葉を述べます。歌声もすばらしく、とてもいい式になりそうです。みんなで心を込めて行いたいと思います。保護者の皆様、御来賓の皆様、お待ちしております。



今日のIt's wonderful!「感動の卒業式」令和7年3月11日(火)

本日、口之津中学校78回目となる卒業証書授与式を行いました。その流れを、順にお知らせします。まずは、受付の様子から。

この生徒たちは、1年生や2年生です。卒業生の保護者や御家族の皆様、来賓の皆様の出欠を記録し、控室や会場へと御案内しました。「おはようございます!」と、あいさつももしっかりできていて、皆さんが笑顔になりました。

←こちらは保護者受付です。まだ来られていないので、学校だよりに見入っていたところでした。読んでくれてありがとう。





9時27分、いよいよ入場です。緊張した面持ちで入ってきました。



教頭先生が開式のことばを述べ、国歌を斉唱し、一人ひとりが卒業証書を受け取りました。その姿を真正面から見る私の席が特等席です。



この後、校長式辞。思いの丈を話させていただきました。（時々、ヒクヒクしながらでしたが……。でも、私が初めて仕えた校長先生は、証書授与のときから大粒の涙を流されていたので、それよりはこらえた方です。）3年間、ありがとうございました。私も卒業です。



教育委員会告示（松本教育長）と視聴祝辞（口之津支所長様代読）のあと、来賓祝辞として、育友会長の松尾さんにお話しいただきました。それが！松尾さん！全部覚えてきていて、圧巻の祝辞となりました。感動しました。うれしかったです！ありがとうございました。



送る言葉は、2年生の飯田さんでした。心を込めて3年生徒へのあこがれや思い出を語ってくれました。彼女のこの姿を見て、小学校の時の校長先生は感動のうちに泣かれていました。



別れの言葉は、生徒会長だった森君でした。3年間の思い出や、学級としてうまくいったこと、いかなかったこと、それを乗り越えて笑い合える楽しい学級になったことなどを話してくれました。彼には、高校で、大学で、そしてそのあとも、それぞれに大きな夢があります。期待しています！



3年生の式歌は「群青」。「いつかまた会おう！」と高らかに歌ういい曲でした。涙ながらに卒業生が歌う様子は、これまでの苦労をすべて洗い流してくれます。いい歌声をありがとう。



式が終わって、最後の学活をしました。一人ひとりが思い出を語り、仲間への感謝を述べました。一つ一つの想いをかみしめながら、最後の学活は終わっていききました。



お見送りのアーチは、ハイタッチでササーっと通り過ぎたものですから、保護者からも「えー、写真取れてない」など、要望があって、異例の「アンコール」！。笑顔で卒業して이었습니다。

これまで3年間、ほんとうによく伸びた生徒たちでした（最初はおとなしかった・・・）。この調子で、高校にいてもいろんなことにチャレンジしたり、たくさんの人に出会ったりして、人生を楽しんでくれたらと思います。そして、時々親孝行もして、ふるさとも大事にして、元気に歩いて行ってください。卒業、おめでとう！



今日のIt's wonderful！「3年生がいない学校」令和7年3月12日（水）

昨日の卒業式から一夜が明けて、3年生がいない1・2年生だけの中学校、初日を迎えました。ぽっかり穴が開いたというか・・・、そんな寂しさを覚える朝でした。

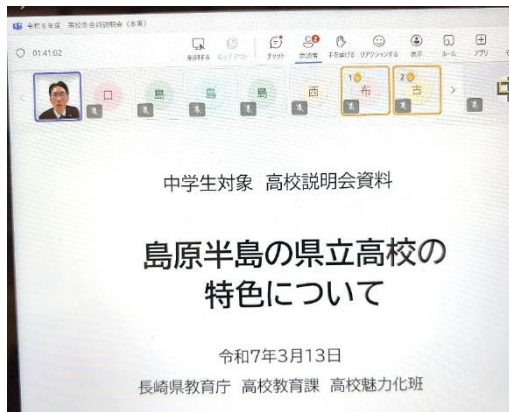
教室はご覧のとおり、すっかり片付いていて、春の日差しの中で思い出だけが流れていました。



1年生を見に行ったときは、数学の授業が行われていました。「平均値」と「中央値」と「最頻値」の区別について学んでいました。同じようでちょっと違うこの数学の世界を「おもしろい！」と味わってくれたらいいのですが・・・。少しずつ難しくなりますが、次の学年へ向けてがんばっていきましょう！



2年生を見に行ったときは、「鑑賞文の掲示物を完成させよう」という国語の授業で、パソコンで作文した鑑賞文を手書きで清書して、鑑賞した絵画とともに掲示物を完成させていました。これって美術の授業とのコラボみたいで、将来も美術館に行ったときに役立つ力を育んでいます。人生を味わうために、いい授業だなあと思いました。掲示しますので、来校された折にどうぞご覧ください。



今日のIt's wonderful! 「高校を知る」令和7年3月14日（金）

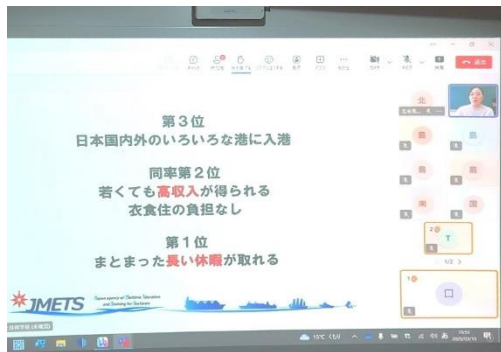
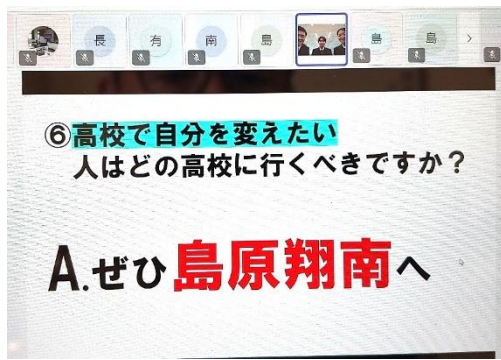
昨日（3月13日）、島原半島内の中学1・2年生とその保護者を対象とした「合同高校等説明会」を開催しました。接続関係のトラブルがありました（該当の学校にはご迷惑をおかけしました）が、今朝、生徒たち数人に話を聞くと「高校についていろんなことが聞けて良かった」とか「高校の先生方の演出（演技？）や話し方がすごくて熱を感じた」、「今度3月末にオープンスクールをする高校があるので行ってみようと思う」など、とてもとても高評価だったので、やってよかったなあと思っています。

会は、県教委高校教育課の先生から「入試改革の趣旨」や「島原半島にある高校の特色や強み」などをお話いただきました。

そのあと、5つの教室に分かれて、生徒たちが自分で選んだ高校等（全部で4つ）の話を聞きに行きました。

提示されたスライドも、去年よりもいっそうグレードアップされていて、内容も詳しく具体的で、生徒たちは一生懸命にメモをしていました。

先述の生徒の感想にもありましたが、今年、とても感じたのが、高校の先生方の『マンパワー』です。個性を前面に押し出して、自校の魅力を流暢にたっぷりと話してらっしゃいました（感動！）。特にKから始まる三つの学校の先生には、絶賛！でした。



それから、キャッチーなフレーズ（大事な言葉）を練り上げて定時されていたことも印象的でした。特に左の高校は秀逸でした。（先日の総合学科発表会での劇も素晴らしかった！）

左のスライドなどは、けっこうポイントを突いています。なぜかと言えば、巷では「初任給が高騰！」などとニュースが流れていますが、「あの額をはるかに超える卒業生もいるよ！」と質問に答えてらっしゃいました。（話によると手取りが「片手」・・・とか。教室がざわつきました。）

これから生徒たちは、一つ学年を上がって、中学校生活を充実させるとともに、進路についても思いを深め、準備を整えていきます。そのために「今度は自分で行って実際に見てくる」というような積極性が求められています。一つ一つのチャンスを逃さずにガッツリつかんでいく感じで活かしていってくれたらと願っています。

開催にかかる関係者の皆様、ほんとうにありがとうございました。

今日のIt's wonderful! 「新入生を迎える準備」令和7年3月19日（水）

この日、朝から生徒会の役員たちが、何やらビデオを撮っていたので、何なのかと覗いてみたら、新入生歓迎行事の準備だそうです。



口之津中学校での生活を説明するときに使うとのこと。もう新年度は始まっています！新入生のみなさん、待ってるよー！



今日のIt's wonderful！「修了式」令和7年3月24日（月）

この日、令和6年度の修了式を行いました。年度を終える達成感とともに、教職員人事が知らされた後の行事ということで、ジワーと寂しさがこみ上げながらの行事となりました。



1年生代表として発表したT君は、この1年間の振り返りと、新しい仲間が入ってきて先輩になる決意を話してくれました。活躍を期待してるよ！



2年生のK君は、最上級生となる想いや決意を話してくれました。最近の2年生の成長ぶりは、目を見張るものがありますので、活躍を期待しています。存分に3年生としての一日一日を楽しんでね！



この後、教室では、最後の学活が行われました。一年間を振り返って、成長したことや次への期待など、担任の先生たちが最後のメッセージを送りました。



そして、通知表・・・。評定（５・４・３・２・１）のほか、担任の先生からのメッセージもあり、生徒たちはじっくり見入っていました。

なお、この最後の通知表には、「修了証書（校印付）」も付いています。１年間よくがんばりましたね。修了、おめでとう！



左は、修了式を迎えた朝の桜です。つぼみが膨らんで、今にも咲きそうな桜に未来の可能性を感じました。



今日のIt's wonderful！「本年度ラストの投稿」令和７年３月２６日（水）

とうとう今回が、本年度の最後の記事となりました。左が今年度のメンバーでした。職員室の雰囲気がよく、何よりも生徒たちが前向きで、明るく、元気にチャレンジしている姿が嬉しかったです。来年度がとても楽しみです！みなさんも期待してください！

これまでご覧いただきましたみなさん、ほんとうにありがとうございました。

終わりに・・・

私が、口之津中学校ホームページの更新作業を行うのも、今回が最後となります。…ですので、これまでの思い出をそこはかとなく書き綴ってみたいと思います。

今までに12の職場（小・中学校、行政）を渡ってきました。初任校は、「俺は軍隊の経験がある」と言って、上官から殴られてマヒした口元そのままに、反対側をクシャッとさせて笑う（卒業式では証書授与のときからポロポロ涙を流す）校長先生がいた中学校でした。着任の御挨拶に伺ったときは、「数年前までこの学校は、県内で5本の指に入る荒れた学校だった（実はうちのカミさんの母校）」、「あんたは大学で先生になるための勉強を4年間してきたとやろ。責任は俺が取る。思いっきりやれ！」と言われて、背筋がピンと伸びたのが教員生活の始まりでした。その頃の生徒たちは、今はもう50歳を過ぎています。どうしてるかなあ。

次の学校は、今は廃校となった宇久島の神浦中学校。小さな小さな学校でしたが、分厚いファイルを渡されて、「この一年間、“これ”で進みます」と手渡されたのが「教育計画」でした。“これ”には学校で使う全ての計画・資料がそろっていました。そのうえ、「今、5年計画の2年目です」と言われたときには、正直、呑み込めませんでした。この学校全体を俯瞰するという経験が、今「口之津中学校の教育」というデータ集になっています。

3校目は、平戸の中野中学校。相撲部の顧問という仕事が用意されていて、2年目からは、保護者からプレゼントしてもらった「まわし」を締めて、全国大会に毎年出場する生徒たちに胸を貸していました。胸や腕がどす黒くあざになっていたことを思い出します。この学校には、6年間いたのですが、いろんなことがありました。結婚したこと（“あの”カミさんと）、子ども（今、太平洋の真ん中の島にいる）が生まれたこと、二番目の子どもが生まれる前に天国に行ったこと、初めて教え子を亡くしたことなど、浮き沈みが激しい6年間でした。

4校目となる魚目中学校は、新上五島にある小さな学校でした。この学校では、しょっちゅう草刈りをしていました。草刈りをしていて、トンビにおしっこを掛けられたこともありました（とにかく臭かった！）。生徒たちは、島っ子の素直さを持った生徒と島の繁華街にあることから街の気質を持った生徒が混在していて、いろんなことを学びました。

そして5校目、母校南有馬中学校。初年の体育大会では、パン作りが得意なうちの兄貴が「何かしてやろう」と仕組んで、PTAのパンク食い競走のパンを、あのセクハラなパン（活字にするのはやめておきます）に替えてぶら下げたのを思い出したのでした。今では有名になったパンですが、いきさつとしてはこんな感じです。（「お乳の神様に由来する」というのは後付けですが、きちんと史実に基づいています。）

そんな幸せ(?)な日々は青天霹靂をもたらしたのが市教委への転勤でした。そして何よりも驚いたのが、幼い頃に、虫歯の治療に行っていた歯医者さんが教育長になられていたことでした。とーっても怖かった方ですが、趣味が多彩で、写真に陶芸、サックス、オフロードラリーなど、いろんなことに一流の方でした。高校生の頃はラブレターの代筆も頼まれていたとか。仕事はとてつもなく忙しかったですが、私の基礎を作った4年間だったと確信しています。

ここを出て次は千々石中学校。1年目の3月11日、東日本大震災が起きました。教頭は、学校の安全・安心を守ることが大きな仕事の一つです。そのために「現場を見に行かなきゃ」と思って、それから5回、東北を訪問しました。千々石の生徒たちも偉いなあと思ったのが、毎月の月命日(11日)に、欠かさず半旗を挙げてくれたことです。千々石の橘神社には、「さざれ石」があります。「千代に八千代にさざれ石の」のあの石です。岩が一つになって苔がむすまで、あなたの命が続きますようにと歌うその歌詞の意味を深く考えた2年間でした。

そこから県教委へ。トイレに行くために席を立てて部屋を出たとき、後を追ってきた同僚が「屋上に行かないか心配になって来た」と言ってくれました。・・・そんな職場でした。でも、勉強することがたくさんあって、今ではいい思い出です。特に(詳しくは伏せますが)当時の栗原課長には感謝しかありません。

初めての校長職は、西諫早中学校でした。ここは生徒たちが素晴らしかった。特に生徒会長は、毎朝校門に立って、全校生徒一人ひとりに気を付けをして「おはようございます」と深々とあいさつするのです。1年生に対してもそうだから、生徒みんな「ワンストップあいさつ」をする。そんな、凛とした空気が流れていました。

そして二回目の母校、南有馬中学校。憧れていた常岡校長や恩師の岩村校長などの写真が並ぶ校長室へ。気が引き締まりました。そして、10年前に復活させていた棒体操(威風堂々)が残っていたことに感動しました。これは、私自身が中学生の時に、鬼塚先生(当時の体育の先生)が始めたもので、約半世紀の歴史があります。ちなみに、あのセクハラなパンを使ったパン食い競走も残っていました。

次は初めての小学校、野田小学校でした。ここでは教員生活で初めての経験というものを2つしました。一つは、子どもたちの一生懸命な姿(図工)を見て、感動すぎて鼻血が出たこと。もう一つは、学校のことを、昼間はもちろん、夜中も朝も、考えすぎてハゲになったことです。一時、3人の先生が同時に休まなければいけない状況が生じた時に、みんなで分担しあって乗り切ったのもいい思い出です。最高のチームワークでした。

そして〇之津中学校。この学校で校長職を終えることができてほんとうによかったと思っています。生徒たちの素直さ、明るさ、一生懸命さ、品の良さ、保護者や地域の皆さんの御理解と御協力など、どれをとっても私たち教職員にとって、これほど教育というものに集中できる環境は、なかなかありません。ほんとうにありがとうございました。

〇之津中学校で行ってきたことは、大きなもので言えば「キャリア教育」と「ふるさと教育」です。別の言葉で言えば、「君はどう生きるか」ということを、生徒と共に考えてきました。一昔前は「高校入試」に直結するものが優先されてきたと思うのですが、社会はどんどん変化していて、未来がどのように変化していくかなんて、誰にも予想できない時代です。私たち教員も、こんなに採用試験の受験者が減り、教員不足に陥るなんて思いもよりませんでした。そんな中で学校は「生きる力」を身に付けさせなければなりません。「生きる力」は「幸せになる力」です。その力をはぐくむには、教師自身がまず「幸せ」でなくてはならない。幸せの手本（その定義はいろいろあるとは思いますが）は、一番身近にいる教員が身をもって示す。これが、私が考える教育改革の根本です。

〇之津中学校でも、教員になって初めての経験がありました。修学旅行の帰りのバスの中で、生徒たちが「お世話になった添乗員さんや運転手さんに歌をプレゼントしよう」と声が上がりました。流行りの曲を歌うのかなと思ったら、自分たちが一生懸命に練習してきた合唱曲「スパークル」でした。あれは心に沁みました。「こんな時に涙なんて・・・」と思いながらも、あふれる涙を止めることはできませんでした。

「自分が幸せになって、人も幸せになる。そんな世の中になったらいいなあ」と卒業式の式辞で言いました。先のバスの中の感動場面は、まさにその一つです。私たちが行っている「生き方（幸せになる）教育」が実を結んだ瞬間だったと思っています（思い込んでいます）。ほかに、「卒業生や在校生の姿がビシッとしていて素晴らしい」とお褒めの言葉もいただきました。体育大会もふるさと学の研究発表会のときも、たくさん、たくさん、褒めていただきました。それ以外でも、私だけが知っている「校長面談」での、本当に素直で、キラキラと未来を語る姿は、私にとっての宝物です。こんな幸せな終わり方ができてほんとうに感謝しかありません。

次の仕事は、「教頭業務の支援」という聞きなれないものです。教員不足に加え、教頭試験の受験者も減少傾向にあります。どれも全国的な人口減少が大きな要因ですが、「報われない忙しさ」も一つの要因です。そこに（小さくはあるのですが）救援の手を差しのべるが私の仕事です。市内4校を回り、教頭先生の繁忙さをちょっとでも少なくするして、他の先生たちや子どもたちに関われる時間を多くしたいと考えています。みなさんの前に出ることは少ないとは思いますが、見かけられたらお声掛けください。

3年間、ほんとうにお世話になりました。

ホームページの御愛読、ありがとうございました。

校長 大嶋博之